

# 全史協四国通信

令和4年度



土佐遍路道 禅師峰寺道

## 国史跡 土佐遍路道「竹林寺道・禅師峰寺道」

- 高知県高知市 -

NHK朝の連続テレビ小説「らんまん」で注目の「牧野植物園」や、名刹「竹林寺」が立地する五台山内にあって、近世以降の様子を現在に色濃く伝えている竹林寺道・禅師峰寺道が令和3年に国史跡に指定されました。竹林寺道は、五台山西麓の旧船着場から竹林寺仁王門へ至り、禅師峰寺道は仁王門から禅師峰寺に向かう石敷きの道です。

この2つの遍路道は史跡指定に先立ち、令和元年に歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道として、文化庁「歴史の道百選」にも選定されています。 ※竹林寺道の写真は裏表紙に掲載。

# 1. 令和4年度事業報告

## ① 総会

令和4年夏季に徳島県阿波市で開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染リスクを回避するため中止し、書面決議に変更した。

### ・議題（書面決議）

議案第1号「令和3年度事業報告、決算報告及び決算監査報告」

議案第2号「令和4年度事業計画案及び予算案」

議案第3号「研修派遣補助金交付要綱の改定について」

議案第4号「令和5年度（第28回）総会の開催地について」 高知市に決定

## ② 記念講演会及び視察研修

令和4年夏季に徳島県阿波市で開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染リスクを回避するため中止した。

## ③ 研修派遣補助金

史跡の保存整備や文化財の保護を担当する職員の資質向上を目的に、各種研修参加に係る旅費について補助金を交付する事業。

- ・令和4年度文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」… 西条市

## ④ 有識者招へい旅費補助金

発掘調査、出土物の整理及び史跡等の保存整備活用のために、現地に有識者を招へいするための旅費について補助金を交付する事業。

- ・史跡讃岐国分尼寺跡の発掘調査指導… 高松市

## ⑤ 全国史跡整備市町村協議会臨時大会及び文化財関係予算陳情

- ・日 時 令和4年11月15日（火）8:30～
- ・場 所 ホテルニューオータニ ザ・メイン「芙蓉」 外
- ・陳情先 四国四県の関係国会議員 27名
- ・参加者 13名

## ⑥ 全史協四国通信

- ・刊 行 令和5年1月

### 【加盟市町】

（香川県） 高松市 丸亀市  
（徳島県） 徳島市 阿波市 美馬市  
石井町 藍住町  
（愛媛県） 松山市 今治市 宇和島市  
西条市 大洲市 西予市  
松前町 松野町 鬼北町  
愛南町  
（高知県） 高知市 南国市

### 【役員】

会 長	松山市長	野志 克仁
副会長	徳島市長	内藤 佐和子
副会長	高松市長	大西 秀人
副会長	高知市長	岡崎 誠也
理 事	美馬市長	加美 一成
理 事	藍住町長	高橋 英夫
理 事	丸亀市長	松永 恭二
理 事	今治市長	徳永 繁樹
理 事	宇和島市長	岡原 文彰
理 事	南国市長	平山 耕三
監 事	石井町長	小林 智仁
監 事	松野町長	坂本 浩

## 2. 研修派遣補助実施報告

令和4年度文化財担当者専門研修「遺跡調査技術課程」報告

西条市教育委員会 社会教育課 岡島 俊也

日時：令和4年9月12日～9月16日

場所：奈良文化財研究所



### 1 研修内容

#### ○ 研修の概要（村田 泰輔）

本研修の概要の説明を受けた。漠然とした課題を毎日考え、その課題を小分けにして少しずつ解決していくとの説明を受けた。

#### ○ 第四紀と考古学Ⅰ（村田 泰輔）

地層の基本について講義があった。地層や層序の原理、粒度区分について解説があった。その要点は以下のとおりである。

- ① 層序を細かく細分するのでもいいが、重要なのはユニット（単位）としてとらえること。
- ② 粒度はウエントワース（Wentworth）粒度区分が世界的に基準となっている。自然の中で形成される粒子の大きさはシルトまでで、見えているもののほとんどは砂である。
- ③ 粒子の大きさと水の流れの関係が明らかとなっている。水が流れると、細かいものよりやや大きいものが先に流れる。

#### ○ 第四紀と考古学Ⅱ（村田 泰輔）

奈良文化財研究所に保管されている剥ぎ取られた土層を前に堆積構造の講義を受け、その観察を行った。堆積構造を理解するには、有機物や鉱物の差、単位、粒度をよく観察し、現場での観察が特に重要との指導を受けた。

#### ○ 文化財調査における探査・計測技術とその適用

##### ① 文化財調査における探査・計測技術とその適用（金田 明大）

遺跡探査について講義を受けた。レーダー探査は、簡単に調査を行えない史跡などで、無理に発掘調査を行わなくても地中の情報を得ることができる、非破壊での調査事例の一つと説明を受けた。柱や礎石、溝などの存在がわかる場合がある。

##### ② 文化財の調査における探査・計測技術とその適用①—三次元計測技術編—（山口 欧志）

文化財調査における3次元計測について講義を受けた。文化財をデジタルで記録するには、3次元レーザーキャナーやSfM-MVS等の測量・計測機器があるとの説明があった。デジタルデータにすると、その後の活用もしやすくなる。

#### ○ 自然科学分野との協業による低湿地遺跡の調査—計画から実践まで—（諫早 直人）

講師自らが調査を行った遺跡を基に、「どのような課題があったのか」、「それをどう解決したのか」を学んだ。低湿地遺跡の調査では、自然科学分析を行うことになるが、調査担当者が「何を知りたいのか」、「それがわかることによって何が明らかになるか」を現場で考えることが重要との指摘を受けた。

#### ○ 興福寺発掘調査現場

##### ① 土層観察（村田 泰輔）

現在の地形やそれを構成する堆積層を詳細に観察する必要性が指摘された。遺跡の層序や遺構埋土に対する自然科学分析は、むやみにすべての土層を対象にするのではなく、自然堆積層を探すことも重要と言われた。

##### ② SfM-MVSの撮影方法（山口 欧志）

SfM-MVSで写真測量データを作成するために現場で写真撮影し、その方法や注意点を学んだ。注意点としては、写真の重なり具合が40～60パーセント程度でよいといわれているが、撮影枚数を多くすることが重要との指摘をうけた。

### ③ 土のサンプリング（上中 央子）

発掘調査現場での土壌採取法を学んだ。採取した土壌は、アルミホイルを巻いて天地を必ず記載することと言われた。

#### ○ 文化財調査における探査・計測技術とその適用—ひかり拓本—（上梶 英之）

ひかり拓本の概要を学び、実習を行った。注意点として、ひかり拓本はあくまで写真であるため、スケール感はなくなるとのことであった。非接触型の拓本技術であるため、紙拓本も含めて活用できる。

#### ○ 遺存体調査（1）植物相・植物資源の検討

##### ① 遺跡から検出される植物遺体の調査（上中 央子）

土壌サンプルの方法、保管、分析までの注意点を学んだ。また、その結果からどのようなことが読み取れる可能性があるかの説明があった。

##### ② 遺存体調査 植物相・植物資源の検討—木材を中心に—（星野 安治）

発掘調査現場から木材が出土した場合の対処法を学んだ。一番大事なものは、木材を見つけることではなく、その木材がどんな状態でそこに存在したかを断面観察から判断することである。

#### ③ 珪藻分析（村田 泰輔）

珪藻について学んだ。珪藻分析を行うと、どの種類かによって、生息する場所がわかる（海や淡水など）ため、海岸線や河川の推定も可能となる。

#### ○ 遺存体調査（2）動物相・動物資源の検討（山崎 健）

動物遺体の堆積環境や、出土した際の作業法について学んだ。骨等はすべてを回収できないため、試しフレイを行うほうが良いとのことであった。

4人の講師が共通して指摘した事項は、調査担当者が分析担当者にすべてを丸投げするケースがあることであった。調査担当者は、どの遺構、どの堆積層、いつの時代かなどの情報を分析担当者と共有し、共同作業であることを強く認識する必要があると指摘された。

#### ○ 文化財調査における探査・計測技術とその適用—SfM-MVSの解析—（山口 欧志）

撮影された写真を基に、パソコンを用いて実習を行った。AgisoftMetashapeプロフェッショナルを用いた画像作成には、容量や解析能力のあるパソコンを使用したほうがよいとのことであった。

#### ○ 土壌試料調査法（上中 央子）

実体顕微鏡を用いた資料採取の方法と水洗選別による試料の採取方法を実習した。種実の皮なども浮いてくるが、すべてを採取せず、形がわかるもののみを採取するとのことであった。

#### ○ 様々な土の見方と記録法（1）活用に向けた調査視点（山田 隆文）

調査を行うに当たっての下準備、周辺の調査成果を見直す、それが本当に正しいのかを考えることを学んだ。遺跡の写真は、データ量が増えても結果的には確認できる情報が増えるため、多く撮影したほうがよいとのことであった。

#### ○ 様々な土の見方と記録法（2）古墳編（西光 慎治）

古墳調査における注意点、地形の観察方法、地名の重要性を学んだ。古墳調査の最初に行う測量図作成は、作図が目的ではなく、微地形を含めて周辺の状況を把握するためのものとのことであった。

#### ○ 様々な土の見方と記録法（3）低湿地遺跡編（村田 泰輔）

低湿地遺跡の定義や注意点を学んだ。低湿地遺跡の調査では、土の中に大腸菌や破傷風を引き起こす菌が存在するため、特に注意が必要とのことであった。

#### ○ 文化財調査における探査・計測技術とその適用—ひかり拓本データの処理と活用—（上梶英之）

実習の成果物を確認し、その問題点と解決方法を学んだ。写真の明るさやカメラのブレ等注意すべき点がいくつかあった。

## ○ 多分野との協業を見据えた考古学の課題（村田 泰輔、山口 欧志、上梶 英之）

これまでの講義内容について質疑応答を行った。新しい手法（技術）に惑わされるのではなく、「自分が何をしたいのか」、「どうしたいのか」を考えて方法を取捨選択していくことが大事だと指摘された。

## 2 所感

調査現場においては、土層観察の大切さを改めて学ぶことができた。分層するにしても、それぞれの土層がどのように堆積し、どういう意味があるのかを考えなければならない。考えた結果が正しいかどうかは別にして、その最適解を求めることが遺跡やその土地の成り立ちを認識できる第一歩であると理解できた。

デジタル技術については、日々進歩していることが改めて実感できた。その技術も数多くあるため、今やるべきこと、やりたいことをしっかりと考え、取り入れられるものがあれば積極的に取り入れていきたい。例えば、ひかり拓本は、文化財の指定・未指定を問わず、市内に存在する石造物や石碑などの調査や、拓本のデジタルデータでの保存活用に役立つとともに、限りある時間の中で調査できるため、非常に有効であると考えます。

今後、公共事業や民間開発による発掘調査で、低湿地遺跡や動植物遺体を含む土層が確認される遺跡の調査を行うかもしれない。その際、本研修で学んだ内容を咀嚼することで、調査時間の短縮やより良い成果の取得につながるものと考えられる。そのために、本研修で学んだ内容を日ごろから意識して発掘調査をおこなっていききたい。また、デジタル技術を取り入れた遺跡や文化財の利活用もおこなっていききたい。

## 「全国史跡整備市町村協議会 四国地区協議会」とは？

全国史跡整備市町村協議会及び四国地区協議会の目的に賛同し、文化財が所在する四国の市町村をもって、平成8（1996）年に結成された団体です。加盟市町村が協調し、文化財の保護に関する調査研究やその具体的な方策の推進を図りながら文化財の保存活用に資することを目的とし、文化財の保存整備と公開活用が円滑に、また適切に行われるよう、文化財に関する情報交換、補助事業、国への予算要望の取りまとめや陳情等の活動を実施しています。

## 「有識者招へい旅費補助金」のご案内

有識者の現地指導に係る招へい旅費について、予算の範囲内で補助金を交付する「有識者招へい旅費補助金」制度を設けております。1件につき10万円を上限とし、先着で年間2件（加盟市町につき1件）を対象としております。補助金の交付対象となるのは以下の4事業です。

- (1)埋蔵文化財発掘調査事業
- (2)出土物整理事業
- (3)その他の文化財修復及び保存事業
- (4)史跡等の保存整備活用事業

詳しい内容については、事務局までお問い合わせください。

## ○編集後記○

全史協四国地区協議会の会誌（令和4年度版）をお届けします。

会誌作成にあたり、御寄稿・御協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響により、当協議会の総会及び研修等事業の中止がつづいております。本年度もやむを得ず総会等の開催を見送りましたが、令和5年度は高知県高知市で、加盟市町の皆様にお会いできることを切に願っております。その際は、ぜひ御出席いただきますようお願い申し上げます。



土佐遍路道 竹林寺道

全史協四国通信 令和4年度

-全国史跡整備市町村協議会四国地区協議会 会誌-

発行年月日 2023（令和5）年1月31日

編集・発行 全史協四国地区協議会事務局

〒790-0003 愛媛県松山市三番町六丁目6番地1

TEL (089)948-6605

kybunka@city.matsuyama.ehime.jp